



**日本財団**  
The Nippon Foundation

助成事業

平成23年度

# 事業実施報告書

特定非営利活動法人三番瀬環境市民センター

## はじめに

三番瀬は、東京湾奥に残る貴重な自然環境である干潟・浅海域です。しかし、長い間、「埋め立て予定海面」として扱われ、地域住民との関係性が壊れ、埋立計画がなくなった今も計画的な保全・再生もできず、無秩序な利用が行われ、その環境は悪化の一途をたどっています。このままではいけない！

本事業では、まず、再生の担い手となる人材育成に取り組みました。三番瀬が大好きというだけでなく、その環境を冷静に観察して、問題を見つけ出し、解決のための行動がとれる人を増やすことを目標に掲げました。

また、他地域で行われている海の保全・再生や、市民による活用例、漁業の活性化などの先進的な取り組みを参考に、海岸管理のあり方と三番瀬再生の仕組みづくりを考えてみました。そして、「渚の交番」をその拠点と位置づけ、三番瀬に必要な施設のあり方を検討しました。その内容・コンセプトはプレゼンテーションとしてまとめ、さらに、施設的设计図（ラフデザイン）をつくって、外観・内観の具体的なイメージを建築模型として形にしました。これらは「シンポジウム」の場で発表し、行政、地権者、漁業者など、三番瀬の再生にかかわる方々に検討していただくことができました。

この1年間の取り組みをまとめました。どうぞご覧ください。そして、みなさんの感想、アドバイスなどをいただければ幸いです。

2012年3月  
特定非営利活動法人三番瀬環境市民センター

## 1. 海岸管理・自然再生の担い手育成

三番瀬の環境再生や新設される環境学習施設（渚の交番）の運営を担う人材育成を目指して、生物を通じた環境のモニタリングや、身近な自然の保全再生のとり組みを体験する講座を開催しました。1年間・全9回の連続講座として実施しています。

提供する体験学習のプログラムは、テーマを三番瀬に絞ってオリジナルで開発したもので、より深い理解を得られるように、資料、道具なども三番瀬仕様に手作りしました。また、講座から自主的な調べ学習や研究、ボランティア活動へと発展できるよう、参考図書をそろえたり、顕微鏡などの器材をいつでも使えるようにしたり、学習環境を整え、指導助言などのサポートもしました。

### 第1回講座「ハスの種を植えよう！」

日時 : 2011年5月14日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所、広尾防災公園

内容 : 三番瀬塩浜案内所と広尾防災公園のハス田に、種となるレンコンを植え、今年度のハスづくりをスタートしました

### 第2回講座「干潟観察と生物調査」

日時 : 2011年6月18日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所、江戸川放水路

内容 : 三番瀬で干潟の生物を観察し、簡単な干潟の調査（表面調査と掘り返し調査）と、ベントス調査（採泥調査）を実習しました。採取したサンプルは持ち帰り、ソーティング（生物の拾い出し）、分類を体験しました。終了後スタッフが同定をして、サンプルを固定し、調査データをまとめました。

### 第3回講座「ヨシ刈り体験&ヨシで草木染め」

日時 : 2011年7月9日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所

内容 : ヨシ原の保全を学ぶために、ヨシ刈りを体験しました。さらに、草木染やのりすの材料として利用し、ヨシの利活用について考えを深めました

### 第4回講座「干潟観察と生物調査」

日時 : 2011年9月25日 8:30~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所、三番瀬・人工干潟

内容 : 船を仕立てて三番瀬の行徳沖にある通称・人工干潟へ上陸し、干潟の生物を観察しました。そして、人工干潟という環境を知り、天然の干潟の生物相との比較をするために、簡単な干潟の調査（表面調査と掘り返し調査）と、ベントス調査（採泥調査）を実習しました。採取したサンプルは持ち帰り、ソーティング、分類を体験しました。終了後スタッフが同定をして、サンプルを固定し、調査データをまとめました。

### 第5回講座「ヨシっ原観察と植物名札づくり」

日時 : 2011年10月22日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所

内容 : 三番瀬塩浜案内所に隣接するヨシっ原を観察して、植物の生態から、その場所の環境や人間との関係がわかることを学びました。その後、花を咲かせたり実

をつけている植物の名札をつくって、ヨシ原に設置しました

#### 第6回講座「ハスの収穫」

日時 : 2011年11月12日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所

内容 : 5月に種を植え、モニタリングを続けてきたハスを収穫して、今年の生育の様子を確認しました。収穫したハスはみんなで料理をして試食し、自然再生の意義や、身近に自然があることの喜びを知ることができました。

#### 第7回講座「プランクトンを見てみよう」「ノリすづくり」

日時 : 2012年1月14日 10:00~12:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所

内容 : 三番瀬で発生した赤潮をくんできて、その中にあるプランクトンを観察しました。海の生態系の一番の基礎となるプランクトンについて学び、東京湾で起こるいろいろな問題ー赤潮の被害、青潮の被害、ノリの色落ちなどと密接にかかわっていることを知りました。きめ細かいモニタリングが必要なことも理解できました。7月に刈って乾燥させておいたヨシを使ってのりすを編みました

#### 第8回講座「成果報告会」

日時 : 2012年2月11日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所

内容 : ハス作りの報告と1年間のボランティア講座の報告会を行いました。参加者が自ら貴重な体験をポスターにまとめ、報告して、1年間お世話になった講師から講評をいただきました。自己満足ではなく、社会的な活動にするために、やってきたことを記録し、発表し、評価を受けることが大切なことを学びました。

#### 第9回講座「のりすき体験」

日時 : 2012年3月10日 10:00~15:00

場所 : 市川市三番瀬塩浜案内所

内容 : 三番瀬で今も行われているのり漁について学び、昔ながらの手すきで乾のりをつくりました。また、行徳漁協が水質浄化を目的に養殖しているワカメを分けさせていただき、収穫の気分を体験しました。この体験講座は一般参加者50人も参加し、受講者はボランティアスタッフとしての役割も果たしました。

添付資料 三番瀬海辺のボランティア講座資料、報告書

## 2. 三番瀬フィールドガイドブック作成

内容 : 三番瀬の観察に役立つよう、生物の紹介を中心にしたフィールドガイドブックを作成しました。ボランティア講座の受講者（有志）も制作にかかわり、内容の検討やイラストづくりで貢献しました。ガイドブックはイベントの参加者や、三番瀬案内所の来所者などに配布しました。



添付資料 三番瀬干潟観察フィールドガイド

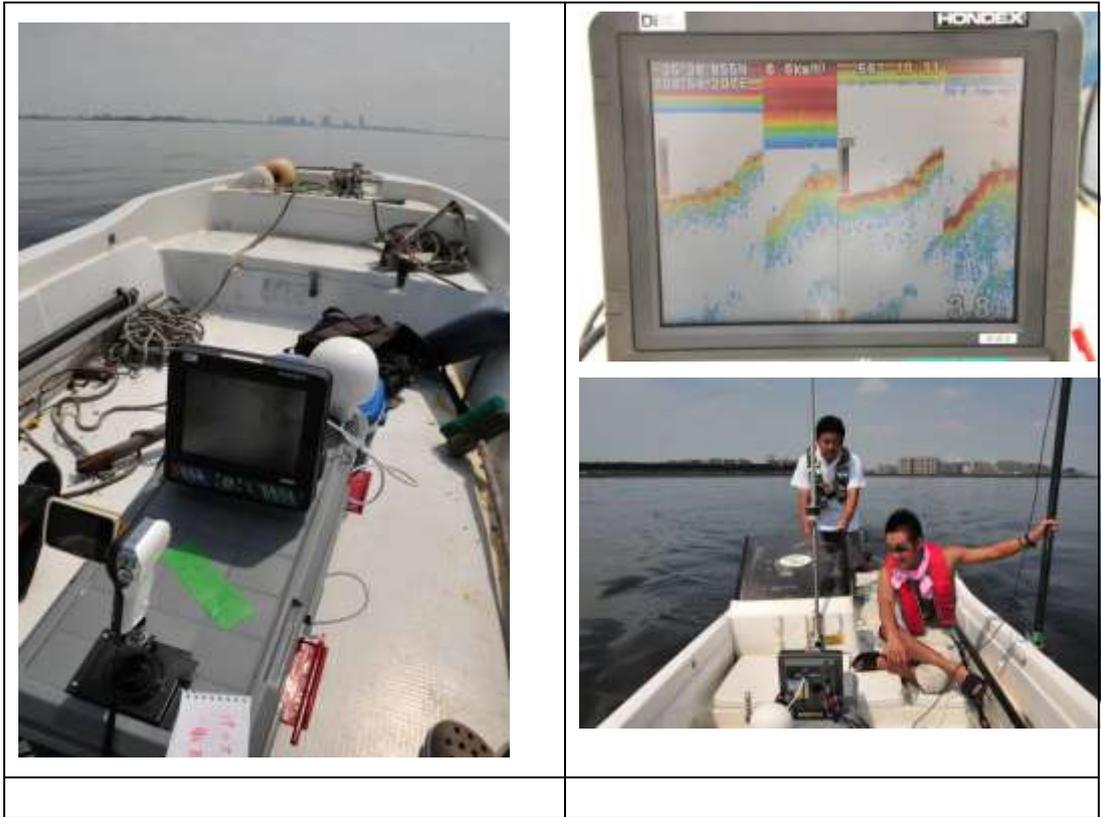
### 3. 東日本大震災後の三番瀬の海底変化を把握する調査

日時 : 2011年5月3日 (予備調査) 7月10日 8月7日 9月22日 9月25日 10月30日

場所 : 三番瀬海域

内容 : 東日本大震災の地震、津波の影響で三番瀬の海底の地形が変化した。さらには異常潮位の影響もあって、正しい情報を得ないと干潟での活動(漁業も含めて)が難しい状況にありました。詳細は行政へ調査を待つことにして、GPSと魚群探知機を使っ現状を把握し、必要があれば潜水して目視で確認して調査を行いました。これにより、活動範囲での地形や水深の変化の概要をつかむことができました。この情報は行政、漁業者らと共有し、プレスリリースして、複数紙で報道されました。





添付資料 深浅調査報告

## 三番瀬 震災で海底ずれる

市民団体調査 数十センチ、でこぼこも

東日本大震災で東京湾の発表した。団体は、でこぼこ十海・三番瀬が受けた影響がアサリ漁などに影響することについて、市民団体「三番瀬フォーラム」（小笠尾精一代表）は11日、周辺の海底が東に数十センチずれたうえ、東西方向に波を打つでこぼこが多数見つかったと



地震で傾いた市川市塩浜沖のアマモ再生場のくい（三番瀬フォーラム提供）

市川市塩浜沖にアマモを繁殖させる活動を行い、震災後、船の航行の安全を確認する目的で調査。調査は7月から10月末まで、三番瀬の8割にあたる約1200

メートルについて、団体の小型漁船で、GPS（全地球測位システム）連動型魚群探知機を使い、海底を調べた。それによると、船橋市潮見町の沖合約400メートルの堤防の経度が東方向に0・005秒、さらに約2メートルの船橋航路西側では0・001秒移動。換算するとそれぞれ約6センチ、約1・5センチ移動した計算になるが、機器の精度などを考慮し、数十センチから数センチは動いたとみられるという。

海底の地形については、南北方向は平らだったが、東西方向はでこぼこが見られ、場所によっては落差が60センチの場所もあった。また、等間隔に並ぶ30センチ程度の突起物や幅6センチの障害物も見つかった。市川市塩浜沖の人工干潟では250センチにわたり、一直線に並ぶくいが出現した。同団体は海底でも液化化現象が起こり、くいが現れたとみている。

市川両市に提出。漁場保全の対策や船舶の航行への注意を喚起するよう訴えた。同団体は三番瀬の環境再生のため、2008年から、

### 三番瀬海底

# 「震災で凹凸状に変化」

## 市民団体調査 2市に対策要望

東京湾の干潟、三番瀬日本大震災で三番瀬川両市長に詳細な調査の海底の砂がさらわれ市民団体「三番瀬フォーラムグループ」(主催・小笠原健一三番瀬や無名の養殖に影響が出るとして、船橋、市GPS(全球衛星位置システム)乗船型魚群探知機を搭載した小型漁船で、水深10前後の凹凸状の三番瀬内を縦横に調査した。この結果、東側に数十センチ

の海底のずれだけでなく、これまでなかった深さ約30センチの凹凸が点在していることも確認した。

市川市行徳地区中の人工干潟そばなどでは、南北それぞれで干潟を囲っていたと見られるくい30、40本や、過去にノリ養殖に使われたと見られる支柱欄が、海底から露出して

域の目印となっている。地たつた三番瀬が凹凸状になり、アサリ漁の漁獲がぶつかったり、のり漁に使う支柱欄の足立にも障害が生じたりしている。古い支柱欄の露出はアレックヤートボートの航行に危険。磯砂などの対策を早急に取り上げてほしい」と話している。

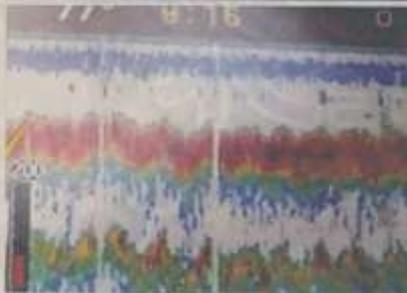
【橋本利昭】

# 三番瀬 震災で変化

## 「漁業や船舶航行支障が出る恐れ」 市民団体「調査を」

東日本大震災の激しい揺れや液状化の影響を受け、東京湾最奥部にある浅海域・三番瀬の海底に起伏ができるなどの変化が起きていることが、市民団体「三番瀬フォーラムグループ」（主宰・小笠尾精一さん）の調査で分かった。同団体は「漁業や船舶の航行に支障が出る恐れがある」とし、船橋、市川両市に調査結果を報告し、詳細な測量や潜水調査などを行うよう求めた。（小川直人）

## 地盤ずれ 海底に起伏



海底は沖合に向かうほど、東西方向に凹凸状に波打っているのが確認された。起伏の高さは約六十センチ。三番瀬の海底はもとより平坦なことでは知られ、地盤がずれればどの

揺れが原因とみられる。起伏はカゴ状の漁具を使うアサリの漁の障害になるといふ。液状化などの影響で、海底下に隠れていたノリ漁の支柱などが隆起し、海底から突き出しているのも多数確認された。市川塩浜海岸近くでは約

二百五十センチにわたり、かつての潮干狩り場の支柱とみられる突起物が出現した。このほか、海底に複数の障害物が存在するも分かった。同団体は、船舶のスクリーナーにぶつかる危険性がある突起物の除去や、起伏の埋め戻しなどによる海底の復旧が必要と訴えている。

主宰の小笠尾さんは「三番瀬は海底が平坦であることが生かした漁法が発達したため、起伏は漁業者にとって大きな負担になる。突起物は海域全域に存在する可能性がある」と、より詳しい調査も必要だ」と話している。

●海面に出現した古い潮干狩り場の支柱とみられる突起物 ●海底の液状化が確認できる探知機の画面（いずれも三番瀬フォーラムグループ提供）

## 県、深浅測量前倒しへ

県は十四日、東京湾最奥部にある浅海域・三番瀬の海底地形が変化した可能性があることを受け、来年度に予定している調査は震災影響調査事業と比較して変化を確認す

る。前回は二〇〇九年一月二三月にかけて行っていた。今年八月の三番瀬専門家会議でも「早期に調べることが望ましい」と指摘され、過去に調査結果を調べ、過去の調査結果と比較して変化を確認す

同団体によると、調査は七月十月末に実施。小型漁船で三番瀬海域を縦横断し、衛星利用測位システム（GPS）に対応した魚群探知機で水深や海底の形状などを調べた。

その結果、GPSによって得られたデータから三番瀬の地盤が東方向に数十センチずれていることが分かった。

# 震災被害の修復を

東京湾の干潟・三番瀬再生に向け、住民らの意見を聞く「三番瀬ミーティング」の初会合が13日、市川市末広の行徳文化ホールで開かれた。地域住民ら約70人が意見交換し、東日本大震災で被害を受けた護岸の早期修復などを求める声が上がった。

## 地域住民ら70人が訴え

県は昨年12月、約3年続いた「三番瀬再生会議」を終結。今後は「県が主体的に事業に取り組む」として、再生計画を評価する「専門家会議」を新たに設置す

るとともに、住民らの意見を聞く「三番瀬ミーティング」を開催することを決めた。

## 海底に起伏確認



震災前には見られなかったくいが多数確認されている。7月、市川市船橋市の人工干潟付近(三番瀬)で調査(写真提供)

東京湾最奥の干潟・三番瀬の環境保全を推進する市民団体「三番瀬フォーラムグループ」(習志野市、小笠原精一主宰)は13日までに、東日本大震災を受けて実施した三番瀬の海底形状調査の結果を発表した。同団体は「地盤が東側に移動しており、以前は平らだった海底が山岡に波打っている。このままでは漁業に影響が出る」との認識を示した。

同団体によると、今年7～10月に調査を実施。小型漁船にGPS(衛星利用測位システム)連動

## 東西3キロ間に最大60センチアサリ・ノリ漁に影響も 市民団体が調査結果

型の魚群探知機を搭載し、約1200㌔の範囲内で海底の深さなどを調べた。調査では、浦安市市の出沖一習志野市船橋市の東西約3キロのラインで最大約70センチの起伏が続き、液状化現象で海底に埋まっていたくいが隆起した地点も広域で確認された。小笠原主宰は「想像以上の変化が起きていた。三番瀬の主たる漁業はアサリ漁とノリ養殖。いずれも海底を相手に働いており、その変化にはさまざまな影響を受ける。行政の厳密な調査が必要」と主張した。同団体は今年11日、市川と船橋両市に調査と復旧を求める要望書を提出している。

市川市塩浜沖に出現した杭の列  
(三番瀬フォーラムグループ提供)



# 「三番瀬」震災で海底変化

## 環境保護グループ、調査要望

東日本大震災の影響で、東京湾の干潟「三番瀬」の海底が大きく波打つなど変形していることを、地域で活動する環境保護グループが確認した。三番瀬は、ノリ漁やアサリ漁が盛んなだけでなく東京湾の多様な魚介類が育つ場所でもある。同グループは、沿岸の船橋、市川両市に地震の影響を詳細に調査するよう求めている。

三番瀬フォーラムグループ（小笠尾精一さん主宰）が7～10月末に、GPS（衛星利用測位システム）で正確な位置が分かる魚群探知機を使って、浦安市から市川市、船橋市にかけての沖合約1200メートルを調査し、海底の変化を確認できたという。

グループによると、本来は平らな三番瀬の海底に、東西方向に波打つような凹凸ができていた。陸地から離れるほど凹凸が激しくなり、沖合2、3キロ地点で高低差は最大で約60センチあった。三番瀬全体の地盤も東方向に数十センチずれているという。

このほか、市川市塩浜海岸で以前、観光客が潮干狩りできる場所を知らせるために打ち込まれたらしい杭が海面に姿を現していることも確認。数十年間も土砂に埋まっていたノリ養殖用の古い竹製の杭が、各所で水面に露出したという。

三番瀬フォーラムグループは、こうした地形の変化で干潮時には船舶の通行が危険になると懸念。漁業関係者によると、今のところノリ漁では大きな影響は受けていないというが、グループでは「障害物のない砂地という条件で三番瀬の漁業は改良、発達した。生態系と漁業を守るため、行政は早期に復旧と再生に着手してほしい」としている。

#### 4. 先進的なとり組み・技術等の視察検討

##### 【事業のねらい】

三番瀬に必要な施設のソフト、ハードをデザインするために、先進的なとり組みをしている施設、団体等を訪問しヒアリングを行いました。得られた情報を関係者で共有し、検討・集約して渚の交番のコンセプト固め、デザインに役立てました。

■視察期間 2011年5月24日～27日

主な内容と訪問先

- ①大阪市港湾局臨海地域活性化室 咲洲コスモスクエアなど  
埋め立て地の利用ルールとしての海浜施設条例、港湾施設条例について、大阪湾再生のとり組みについてヒアリングを行いました。
- ②OMソーラー 地球のたまご（静岡県浜松市）  
自然エネルギーを利用した施設づくりについて見学とヒアリングをしました
- ③滋賀県琵琶環境部琵琶湖政策課（水政策担当、琵琶湖再生担当、琵琶湖レジャー対策室）  
県立琵琶湖博物館、ヨシ原再生の現場、ビオトープなど  
利用ルール（漁業とマリンレジャーのすみわけ）、南湖湖底環境改善事業を例として国、県、市、地元、研究機関など多様な主体が連携した自然再生についてヒアリングを行いました。

海遊館（大阪府大阪市）	
	
8階建ての巨大な水族館	水槽の中を抜けて最上階に上がっていく
	
身近な海としてアマモ場を紹介していた	

	
<p>開発がすすむ咲洲エリア。中央は地上55階建ての大阪府咲洲庁舎（通称コスモタワー）</p>	<p>コスモタワー40階で、大阪市港湾局臨海地委活性化室の浦南さんにヒアリング。大阪湾の再生、利用のルールについて聞いた</p>
	
<p>再生の試みが行われている咲洲キャナル</p>	<p>超微細気泡発生装置を設置し、常時ナノサイズの気泡を出している</p>
	
<p>ナノバブルの突出口。周辺には大きなクロダイが泳いでいた。生物は増えている</p>	<p>直線の護岸を湾曲につくりかえた、海の時空館</p>
<p>浜名湖物産館よらっせ（静岡県浜松市）</p>	
	

	見慣れない魚が並んでいた
地球のたまご（静岡県浜松市）	
	
シゼンエネルギー活用の情報発信基地 「地球のたまご（OMソーラー本社）」	
	
OMソーラーシステムの心臓部ハンド リングボックス	ダクトの中をあたためた（冷やした）空 気が通り、換気や冷暖房をする
	
スマートパネル	空気が建物の中をめぐる様子がわかる
	
床下も通風している	

	
<p>合併浄化槽で処理された水は、この田んぼに入る</p>	<p>屋根で集熱して室内を暖めたり、熱を逃がしたりする</p>
	
<p>全景</p>	
	
<p>ゴミ置き場も周辺と違和感を与えない配慮がされている</p>	<p>敷地内でアカテガニ発見！</p>
<p>はまなこ体験学習施設うおっと（静岡県浜松市）</p>	
	
<p>水産技術研究場浜名湖分場でもある</p>	

<p>カキ養殖の方法を解説する模型</p>	
<p>アマモ。藻場の大切さを解説していた</p>	<p>タッチプール</p>
<p>滋賀県琵琶環境部琵琶湖政策課</p>	
<p>滋賀県には琵琶湖を担当する課がたくさんある。この日は3つの課が対応してくれた</p>	<p>少なくなってしまったヨシ原を市民参加で取り組みを見学</p>

	
<p>ヨシの生育に適した地盤高をつくって、ヨシ原を再生させている</p>	<p>体験学習施設。ヨシ刈りや観察会などで利用されている</p>
	
<p>ビオトープ</p>	<p>地元の小学校や地域の団体などが協力してヨシ刈りを行っている</p>
	
<p>琵琶湖博物館。琵琶湖再生を担保する研究機関。市民ボランティアが館内のガイドだけでなく、調査・研究にも参加する</p>	<p>実物を使った展示がユニーク</p>
	
<p>臨場感を出す工夫がされている</p>	<p>床に衛星写真。琵琶湖の大きさ、距離感を体感できる</p>

■視察期間 2011年7月19日～22日

主な内容と訪問先

- ①海を活かしたまちづくりの例として、門司港レトロ地区（北九州市）、唐戸地区（下関市）、響南地区新マリノバージョン拠点整備（北九州市）を視察
- ②(株)キューヤマ（北九州市）  
サブマリントラクターの見学
- ③道の駅鹿島・干潟展望館（佐賀県鹿島市）  
海を活かした地域活性化、干潟のアクティビティ視察
- ④渚の交番（宮崎県）

門司港レトロ地区、唐戸地区	
	
門司港レトロ。駅や繁華街が水際にある	対岸の下関との間を往復している船。関門橋を車で渡るより早い。
	
対岸の唐戸。船がついた栈橋からずっと水際はボードウォークになっている	ボードウォークからいけすが見える。新鮮な魚が食べられる期待感がわいてくる
	
唐戸市場。明るく清潔で、入りやすい。	

下関市立しものせき水族館・海響館（山口県下関市）



下関と海の間わりがコンセプト

最大水槽「関門海峡潮流流水槽」。水面が関門海峡と同レベルに作られていて、海の中をのぞいているよう



フグの展示が多い

体験コーナーは地元の水産大学が担当

サブマリントラクター（株・キューヤマ／福岡県北九州市）



水中、潮間帯を問わずに走行できるトラクター

水圧で駆動する改良版。油性の燃料を海に入れないクリーンな作業車



操縦は簡単

小型で軽量、干潟でも沈まない

響南地区新マリノバージョン拠点整備（福岡県北九州市）



階段護岸とスロープで水辺にアプローチ



石積護岸の一部が階段状になっている



マリノワールド海の中道（福岡県福岡市）



スリットから干潟をのぞくとカニが活発に動いている



	
<p>天然記念物カブトガニのタッチプール?!</p>	<p>体験学習のカウンター 子どもにはちょっと高いか?</p>
<p>道の駅鹿島 (佐賀県鹿島市)</p>	
	
	
<p>併設された干潟体験館</p>	<p>手作りの展示が並んでいる</p>
	
<p>管理・運営する NPO の皆さんに話を伺った</p>	

	
<p>泥干潟で遊ぶため、シャワー、更衣室を備えている</p>	<p>干潟を楽しむアトラクションを提供（ガタスキーなど）</p>
	
<p>入場料には地下足袋レンタルが含まれている</p>	<p>階段護岸から干潟へアプローチ</p>
	
	
	<p>干潟でどろんこになって遊ぶため、海から上がる前にシャワーを浴びる</p>



ガタスキー



仕掛け網の漁も体験できる

渚の交番・宮崎



管理運営をする 宮崎ライフセービングクラブ藤田さんにヒアリングをした



ホール



展示物

■視察日 2011年9月26日

主な内容と訪問先

富津漁協（千葉県）、富津潮干狩り場

海岸利用のルールと密漁対策についてヒヤリングをしました

	
<p>富津潮干狩り場</p>	<p>管理する富津漁協 さんに話を伺った</p>
	
<p>海岸からの出口は一カ所だけ。アサリの無断持ち出しは絶対にできない</p>	<p>夜間はサーチライトで照らし、ノクトビジョンで常時監視している。密漁者はほとんど来ない。密漁者をつかまえることに重点を置くのではなく、密漁する気にさせない抑止に重点を置くべきと理解した</p>

■視察期間 2011年11月15日～18日

主な内容と訪問先

- ①どんぐりランドビジターセンター（NPO法人どんぐりネットワーク、高松市）  
市民参加型での里山保全活動についてと、その拠点としての施設のあり方についてヒヤリングをしました
- ②塩業資料館（坂出市）見学
- ③道の駅うたづ臨海公園（綾歌郡宇多津町）、宇多津町産業振興課  
復元塩田での塩作りを見学、地域の歴史・文化を活かした地域活性化についてヒヤリングをしました

どんぐりランドビジターセンター（香川県高松市）	
	
林野庁の助成を受けて、香川県が設置。林業の衰退による山の荒廃を防ぐため、市民参加による里山保全の拠点	内部。訪れた人は自由に使える
	
裏に回ると、入り口は2階だった	1階は倉庫と作業スペース
	
倉庫	外には炉があって、調理ができる



NPO 法人ドングリネットワークの白井事務局長（右から2人目）と常駐スタッフ

高松港（香川県高松市）



訪問時に日本丸が寄港していた。会う人皆「見てきた」と話していて、いかに海、船に関心があるか実感した

塩業資料館（香川県坂出市）



塩づくりの道具が展示されていた



どのような作業をしていたかが伝わる  
工夫が随所に見られた

瀬戸大橋 与島サービスエリア (香川県)



瀬戸大橋の眺望は素晴らしい

立派な看板、施設があったが



人の気配がない

売店も入りづらい雰囲気。ロケーション  
がよく、立派な施設があっても、人は集  
まらないことを実感した

みなとオアシスうたづウミホテル  
(香川県綾歌郡宇多津町)  
宇多津町産業資料館



産業資料館

瀬戸内海を望む立地



潮風が抜けるデッキ



塩焼き小屋



大鍋



かまど



できた塩をストック



塩田 毎日作業をして、年間3トンの塩を生産している





その他の視察

■視察期間 2011年8月3日

訪問先 手賀沼（千葉県）

	
<p>広大なハス田が広がる</p>	<p>木道があり、間近にハスを見られる</p>
	
<p>木道は目立たない</p>	<p>観察台。高いところから見る</p>
	
<p>水の館</p>	



来館者が観察した生物の情報を掲示



手賀沼の水を顕微鏡で見られる



顕微鏡など等価な備品があり、解説のパネルも多い。しかし、案内してくれる人がいない

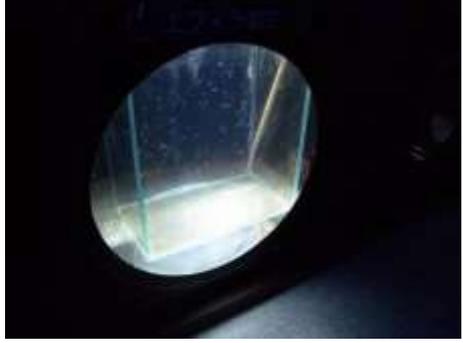
■視察期間 2011年8月7日  
訪問先 道の駅雛の里（千葉県南房総市）

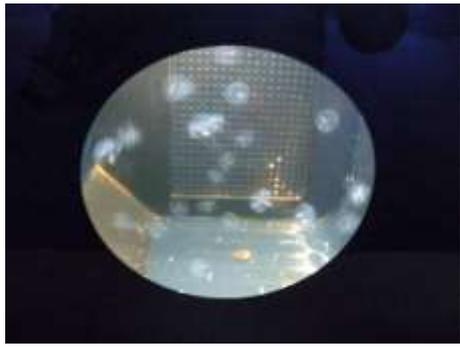
	
<p>のどかな里山の風景を独り占め。国道のわきとは思えない</p>	<p>店内のカウンターキッチン。お茶などを飲める</p>
	
<p>カウンターの外側からも使えるシンク、コンロがある。料理教室などのイベントでしようする</p>	

■視察期間 2011年10月24日  
 訪問先 品川水族館（東京都）

	
<p>東京湾の海がテーマ</p>	<p>工夫はしているが…</p>
	
<p>タッチプール</p>	<p>タッチプール内の生物を詳しく解説</p>
	
<p>ミズクラゲの解説がていねい</p>	<p>四角い柱状の水槽で飼育</p>
	
<p>東京湾の環境を解説する展示</p>	

■視察期間 2011年10月14日  
 訪問先 新江ノ島水族館（神奈川県）

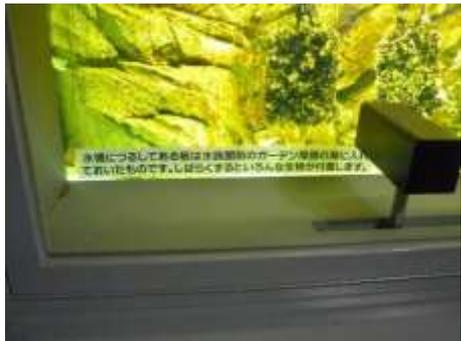
	
<p>ミズクラゲの飼育に、日本で初めて成功した水族館</p>	
	
<p>汽水域の水槽 トビハゼ、カニを飼育</p>	<p>アマモ水槽</p>
	
<p>アマモ場のはたらきを理解してもらう展示</p>	
	
<p>ミズクラゲ（成体）の展示水槽</p>	<p>ミズクラゲのエフィラ</p>

	
<p>メテフィラ</p>	<p>クラゲドーム</p>
	
<p>環境学習館。有料のワークショップもある</p>	<p>カウンター上に、水槽、顕微鏡など環境学習の材料が置かれている</p>
	
<p>すべてをスタッフ一人で仕切る</p>	<p>カウンター上にあったアマモ水槽</p>
	
<p>江ノ島の環境情報をボードに</p>	<p>床に衛星写真</p>



■視察期間 2011年11月24日  
 訪問先 名古屋港水族館（愛知県）



	
	<p>この水槽だけ名古屋港の海水を入れて、 付着生物を発生させて展示</p>
	
<p>ヤドカリ水槽と関連する書籍を関連づ けて展示</p>	<p>展示生物の「今」をボードで解説</p>
	
<p>港湾施設と歩道を、植栽をつかってさり げなく隔離</p>	<p>こちらは段差と植栽で隔離</p>
	
<p>港湾施設内に警察、税関、海上保安部の 施設があり、無秩序な利用をする気が起 こらない</p>	

## 5. 目指す海岸管理体制の提案、協議

三番瀬「海と向き合う」環境学習施設シンポジウム～新しい公共として～を開催。今年度の事業でまとめた「渚の交番」のコンセプトや、ハード・ソフトのデザインをプレゼンテーションして、関係者（行政、市議会議員、地元企業、地元住民、NPO、学識経験者）から意見、アドバイスなどをいただいた。

日時：2012年2月18日 15:00～18:00

場所：オリエンタルホテル東京ベイ

内容：三番瀬「海と向き合う」環境学習施設シンポジウム～新しい公共として～を開催。今年度の事業でまとめた「渚の交番」のコンセプトや、ハード・ソフトのデザインをプレゼンテーションして、関係者（行政、市議会議員、地元企業、地元住民、NPO、学識経験者）に協議していただいた。

パネリスト：

- 石川 喜庸 (市川市 行徳支所長)
- 田草川信慈 (財団法人市川市緑の基金 事務局長)
- 北原 理雄 (千葉大学・大学院 工学研究科教授)
- 田中幸太郎 (市川市市会議員)
- 佐々木洋晃 (市川市塩浜協議会 まちづくり委員会事務局長)
- 澤田 洋一 (市川市行徳漁業協同組合 会計理事)
- 篠田 務 (師匠)
- 志村 英雄 (日本野鳥の会・千葉県 会長)
- オブザーバー
- 荻上健太郎 (日本財団海洋グループ 海洋安全・教育チームリーダー)
- 青木 透 (日本財団 海洋グループ 海洋安全・教育チーム)
- 座長
- 小笠尾精一 (三番瀬フォーラムグループ主宰)

(順不同 敬称略)

スケジュール

- 開会・趣旨説明 (NPO三番瀬)
- 塩浜のまちづくりと環境学習施設のコンセプト (NPO三番瀬)
- 塩浜第一期先行地区および塩浜2丁目護岸の進捗説明 (市川市)
- 環境学習施設の建築コンセプト (NPO三番瀬)
- 海岸管理、利用のルール (NPO三番瀬)
- ディスカッション
- 日本財団コメント



パネラー



会場の様子



NPO若手スタッフも提案を発表



市川市から塩浜のまちづくりについて  
報告



講座受講者も意見を発表



話題提供

	<p>小川洋（レンジャー講座第12期、東邦大学理学部卒業）          大学で干潟の生物を研究した経験から、三番瀬での調査活動をとおして、市民と研究者の交流の場を増やし、市民研究者を増やしていきたい。渚の交番には、調査器材を備えて希望者に貸し出したり、調査者がデータを整理できるようなスペースをつくと喜ばれると思う。みんなで三番瀬を見守る仕組み作りをしたい。</p>
	<p>野口真利江（レンジャー講座第11期、九州大学院）          現在、プランクトンの硅藻の研究をしている。硅藻の分析から地形変化などが導き出せ、地震や津波、火山の噴火など過去の災害を知る手がかりとなる。東日本大震災後、地震に関連する調査の依頼が多く、東京湾に関してもさまざまな研究が行われている。そのデータを専門家だけのものにするのではなく、渚の交番のような施設で展示・公開すれば、本当に必要な人の手に届くのではないか。</p>
	<p>小池美麻（ボランティア講座受講者 小学4年生）          三番瀬海辺のボランティア講座を2年間受講し、いろいろな海の体験をして三番瀬やそこに棲む生きものが大好きになった。海の近くに渚の交番ができれば、三番瀬に触れる機会が増えると楽しみにしている。</p>
	<p>金光弥思（ボランティア講座受講者 小学4年生）          三番瀬での活動を通して、さまざまな環境問題に興味をもつようになった。実際にフィールドを持つことによって、例えば地球温暖化の何が問題なのか具体的にわかる。三番瀬から学ぶことはたくさんある。</p>

パネリストのコメント

	<p>篠田務（師匠）          行徳に生まれ、海苔を作り、蓮根を作っていました。だんだんと海が悪くなったことはその通りだと思う、潮通しが悪いし、排水場の排水の三番瀬への流入の問題もあった。浜をつくる（干潟を増やす）のもためになるが、濘を沖に向かった掘ることも必要だと思う。このNPOが10年前にやった、「海辺のふるさと再生計画」に書かれたとおりに、進められるのが良いと思う。</p>
---	---

	<p>北原理雄（千葉大学・大学院 工学研究科教授）</p> <p>塩浜と行徳の海とまちの関係がどうあるべきなのか提案をし、ともに地域としての方向性を語り、エリアマネジメントという考えのもとに組織を構成し、まちづくりの方向感を共有し、開発と保全の組織を並列で動かしていくべきでしょう。</p> <p>海岸線の利用ルールについては、これまではどうしても泥縄になってしまい、問題の解決を遅らせて来た。この塩浜については先行してルールを出して行くべきだろう。</p>
	<p>佐々木洋晃（市川市塩浜協議会まちづくり委員会事務局長）</p> <p>塩浜の再開発の第一期を早く着手したいと協議会の5社は考えています。われわれ企業は駅前の賑わいを中心として行っていかうとしている。その計画の中でも、海に触れることができ、健康が増進されるような海岸線を作れないものかと考えています。これもエリアマネジメントとしてどこかが集約して進めて行くことが必要だと思う。</p>
	<p>志村 英雄（日本野鳥の会・千葉県 会長）</p> <p>今でも釣り人はどこからか工事中の護岸に入り釣りをしている。事故が起こる可能性は既にあり、責任の所在もはっきりしないまま、塩浜の釣りが広まって行きことは問題があるだろう。</p>
	<p>田中幸太郎（市川市市議会議員）</p> <p>広報に親水護岸が出来たという記載がされ、私のところにはサーフショップが、波静かな三番瀬をスタンディングボード（パドルサーフィン）のメッカに出来ないかという相談が来ています。これはどう見ても早期に漁協など関係者とルールを作らないと問題が発生するだろうと想像できます。コントロールをする機関が必要なのだと思います。</p>
	<p>石川喜庸（市川市 行徳支所長）</p> <p>市川市の職員として40年行徳に関わって、三番瀬、塩浜にも愛着がある。自分の代で（3月末で定年退職）なんとかしたかったが、すぐにでも庁内に検討会を立ち上げ、環境学習施設建設に関する検討を始めたいと考えています。</p>
	<p>澤田洋一（市川市行徳漁業協同組合 会計理事）</p> <p>これまでに塩浜では人工干潟で潮干狩りをやっていた時期もあったのですが、人出がすごくて路上駐車も多く周辺からの苦情が寄せられ、継続できなくなりました。海岸線を解放するまえにそういうことも考えておかないといけない。NPO三番瀬の考える施設がコントロール役になってくれるとありがたい。</p>



小埜尾精一（三番瀬フォーラムグループ主宰）

渚の交番建設については誰一人反対する人が居ないので、地元企業の街づくり協議会の事務局長の米山倉庫佐々木さんも、市川市行徳漁協の澤田常務も、市議会議員の田中幸太郎さん、そして日本野鳥の会千葉県会の志村会長も、さらには今日エリアマネジメントという視点から見た塩浜のポテンシャルについて言及を頂いた千葉大学の北原教授からも、渚の交番の必要性が言われました。

長らく動かないままであった三番瀬の環境機能の再生も担いながら、さらに市川塩浜駅南口の再開発の目玉施設として、エリアの中心施設に資するものとして、今後建設に向けて活動を活発に行こうと身を引き締めたところです。ぜひ、来年はこの新浦安のホテルでなく、塩浜でエリアマネジメントと密漁対策など必要なルールについて、新設の渚の交番で協議出来ることを願っております。

添付資料

シンポジウムチラシ

シンポジウムプレゼンテーション資料 コンセプト編、建築編、ルール編

## 最後に

今事業では、渚の交番建設に向けて、ソフト・ハード面のグランドデザインを固めて建築士に伝え、コンセプトを具現化する器の「設計図バージョン1」を作り、それを基に広くプレゼンテーションするためのツールとしてパワーポイントや建築模型を作ることで、それを関係者に見てもらい、意見、アドバイスをいただきながら、渚の交番の建設やそこで展開する三番瀬再生のための活動にコンセンサスを得ることを目標に置きました。

これまでの活動の中で積み上げてきたコンセプトはすでに持っていましたが、各地でのさまざまな取り組みを視察し、現場の方々に話を伺ったことで、新たな視点が加わり、より具体的な計画を練り上げることができました。また、東日本大震災を経験したことで、三番瀬や地域の中での自分たちの存在意義と、何を求められているのかを再認識し、

今年度事業の総まとめの場と位置づけた「三番瀬・海と向き合う環境学習施設シンポジウム～新しい公共として～」には、三番瀬や塩浜のまちづくりのキーマンたちにパネラーとして参加していただき、事業の成果である渚の交番のコンセプトと設計図を披露し、意見交換を行いました。すでに問題意識は共有しているメンバーということもあり、提案に共感を得られたのはもちろん、共通の目標に向かって一緒にやっていると実感することができました。事業の目標は十分に達成できたと考えます。

渚の交番の建設着工は2013年度を予定しています。2012年度は、ハード面、ソフト面ともに充実を図ることが目標ですが、さらに海を含めた地域の「エリアマネジメント」ができる組織、「新しい公共」を担える組織として活動の質を高めていきたいと考えています。

特定非営利活動法人 三番瀬環境市民センター